

〈第3分科会〉

「成果指標の設定と評価を要点とする食育推進の取組み」

八尾市立八尾小学校
栄養教諭 南田 明美

1. はじめに

八尾市は大阪府の中央部東寄りに位置し、大阪市、東大阪市、柏原市、松原市、藤井寺市、生駒山系を境にして奈良県に接している中核市である。えだまめや紅たでの特産物を多く栽培する等、農業も盛んである。

八尾市の小学校給食は、市内統一献立を自校調理方式で実施しており、行事食や郷土料理、地場野菜である八尾若ごぼう・えだまめ・小松菜を献立に取り入れている。また、八尾市学校給食献立コンテストや八尾市の給食を紹介する学校給食大会等、給食を通じた食育推進を行っている。

本校は八尾市役所に隣接しており、校区内には公共施設や商業施設が多く、人が集まる地域である。児童数は660人、21学級の学校である。

2. 本校の食育推進体制

本校では、食に関する指導の全体計画等食育推進に関わる案件は、最初に食育部（構成員：食育担当教諭・養護教諭・栄養教諭）、次に人権部（構成員：学年人権担当教諭・支援学級代表・養護教諭・栄養教諭）で検討され、食育推進委員会（構成員：校長・教頭・首席・栄養教諭・養護教諭・学年主任・支援学級代表）で決定される。

少数で構成された食育部で丁寧に案件を考え、各学年から一人出席している人権部で検討し、その後、学年に案件を持ち帰って学年としての意見をまとめ、食育推進委員会で全学年の意見を出し合いながら協議して決定される。

食に関する指導は、食育推進委員会で決定された全体計画に沿って実施される。また、食育アンケート等の結果をまとめて学習の成果を評価し、改善点を検討していく。

3. 本校の食に関する課題

本校は教育に関心の高い家庭の児童が多く、食に関する知識をもつ児童も多い。しかし、高学年になるにしたがい、塾や習い事で帰宅や就寝時刻が遅くなる児童が増えており、令和3年度末の調査では、本校が目安としている

就寝時刻（低学年は21時、高学年は22時）を守れている児童は39%、7時までに起床できている児童は93%、朝食を毎日食べている児童は92.2%と、生活リズムを崩して遅寝遅起きの生活になり、朝食を欠食する児童が少なからず見られた。好き嫌いや偏食、摂食障害等で給食を極端に食べない児童もあり、令和3年度の給食残菜率の平均は2%だった。また、食事マナーの面についての児童の意識調査では、「箸を正しく持つことができる」が81.7%、「食器の正しい置き方を知っていて、正しく置くことができる」が89.0%、「八尾市で取れる地場野菜を3つ以上知っている」は81.7%であったが、給食時間に巡回していると実際は7割に満たないのではないかと感じる。

児童には、健康に成長するための知識と自分の生活を繋げて考え、より良い食習慣を実践する力を養わせた。そのためには、日々の生活で繰り返し経験を積ませることが大切であり、教職員が児童にどのような食習慣を身につけさせたいのかを明確に意識した指導を続けることが大切であると考え。

4. 目標の設定

児童の実態より、食事マナーや地場野菜の認知度はさらに丁寧に取組むべき課題であると考え、『児童がより良い食習慣を実践できるようになる』を令和4年度の目標とした。また、6つの食育の視点はどれも大切であるが、1つの視点に重点をおいて取り組むことによってその視点を意識して指導することができ、食育の効果が出ると考え、「食文化」を重点項目とした。

5. 成果指標の設定

食文化の中でも給食時間に気になる食事マナー等から、10項目を選んで成果指標とした。成果指標は次の通りである。

- ① 体に良い「食べ物」や「食べ方」について知ろうとする。
- ② 「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする。
- ③ 食器を正しく置くことができる。
- ④ 箸を正しく持ち、正しく動かすことができる。
- ⑤ よくかんで食べる。
- ⑥ 朝ごはんは食べた方が良く思う。（朝食の喫食率は本校の課題であるため項目に加えている）
- ⑦ 自分が決めた量の給食を残さず食べる。
- ⑧ 食べ物には旬があることを知っている。
- ⑨ 八尾市の地場野菜を3つ以上知っている。
- ⑩ 行事食を知っている。

成果指標それぞれに目標とする数値を定めるには目安となる資料が足りなかったため、年度当初と2学期末の2回「食育アンケート（児童用）」を行い、より良い食習慣の実践が見られることを目標とした。

次年度以降に継続して取り組む時は、今回の数値から目標値を出すことができると考えた。

6. 活動指標の設定

目標を達成するために、担任が授業の中で食育を意識して取組めるような具体的な活動指標を考えた。

- ① 食文化に関連する単元で食育の視点を入れた授業を年に1回以上実施
- ② 栄養教諭と連携した授業を年に1回以上実施
- ③ 給食時間のミニ指導を月に1回以上実施
- ④ 給食用デジタル日めくりの活用（毎日）
- ⑤ 郷土料理の紹介動画の視聴（月に1回）

7. 取組内容

(1) 教科と関連した食に関する指導

担任、または担任と栄養教諭のチームティーチングで食育の視点「食文化」を入れた授業を実施した。その際、「教科と関連した食に関する指導実践集 担任だけでもできる！栄養教諭とならももっともってできる！！」（公益財団法人大阪府学校給食会）を参考とした。

国語科「きせつの言葉」では、担任が児童から季節を感じる言葉を引き出し、栄養教諭は季節の料理や給食、旬の食材とその特徴について話をした。児童は季節ごとにおいしく栄養のある食べ物があること、自分たちも季節にあった料理を食べていることに気づき、旬の食材を探すことに夢中になっていた。



家庭科では栄養教諭が給食で登場した行事食を説明した後、担任がタブレットを用いて年中行事と行事食の紹介資料を作成させて全員が前に出て発表をした。知らない行事が出るたびに興味深そうに話を聞く児童

の姿が見られた。その後、外国語科でスリーヒント行事食クイズをしたが、家庭科の授業を思い出しながら英語のヒントに集中し、多くの児童が元気に手を挙げていた。児童が作った行事食の資料はカラー印刷して、全校児童が見ることができるよう食育用掲示板に掲示した。

家庭科では、さらに世界の料理の資料を作り発表をさせた。こちらは使用する食材を栄養三色に分けさせておいて、次の外国語科でその資料を英語で発表させた。児童は、家庭科で考えた資料を外国語科で使用する

ことで、関心をもって授業を受けていた。

～教科と関連した食に関する指導～

- 1年 食事のマナー（生活科）
- 2年 かむかむメニュー（道徳科）
- 3年 きせつの言葉（国語科）
- 4年 おせち料理（総合的な学習の時間）
- 5年 What would you like?（外国語科）
- 5年 行事食（家庭科）
- 6年 Let's think about our food.（外国語科）
- 6年 世界の料理（家庭科） 等

(2) 給食時間中の指導

① 給食時間のミニ指導

月毎にテーマを変えた3種類の指導内容（低・中・高学年用）のロイロノート資料を作成し、給食時間に担任が3分指導を行った。旬の食材がテーマの月は、その食材を使った献立の日に実施することで食への関心が高まった。

② 給食用デジタル日めくり

当日の給食の配膳の仕方や使われている食材のクイズ等をロイロノートで作成し、担任が給食時間に大型テレビで映しながら指導した。また、日めくりには食事マナーが1つ書いてあり、毎日繰り返し指導することで児童に意識させるようにした。



③ 郷土料理の紹介動画

令和4年度の八尾市の給食テーマが「郷土料理」だったため、毎月違う都道府県の郷土料理が給食に登場した。その郷土料理が給食に出る日に、地図や有名

な観光地等の紹介を加えた動画を作成し、給食時間に視聴させた。



8. アンケートの実施と評価

(1) 成果指標

『児童がより良い食習慣を実践するようになる』という目標の到達度を、数値で評価できるように、以下のアンケートを実施した。また、既存調査結果（元気アップ週間の生活カードの集計結果）も使用した。

① 食育アンケート（児童用）

成果指標で設定した10項目が今回の取組みでどう変化したかを比較できるように、5月と12月の2回実施した。児童が回答しやすいように、ロイロノートのアンケートカードを使用した。

1回目と2回目で改善がみられる項目がある一方、数値が下がった項目も複数あった。（資料1参照）

表1 令和4年度食育アンケート（児童用）全校集計より一部抜粋

設問	回答	1回目	2回目
		平均 (%)	平均 (%)
3.食器を正しく置いていますか？	正しく置いている	77	72
	正しい置き方は知っているが、正しく置いていない	15	20
	正しい置き方を知らない	8	8
	計	100	100
4.箸を正しく持ち、正しく動かすことができますか？	箸を正しく持ち、正しく動かすことができる	73	80
	正しく持てるが、正しく動かせない	19	12
	正しく持てない	8	7
	計	100	100
8.食べ物にはおいしい季節（旬）があることを知っていますか？	知っている	54	63
	なんとなく知っている	32	27
	知らない	14	10
	計	100	100
9.八尾市でとれる野菜（地場野菜）を知っていますか？	1つも知らない	12	21
	1つ知っている	16	17
	2つ知っている	23	22
	3つ以上知っている	48	40
計	100	100	
10.行事食（「正月」などの決まった日に食べる料理）を知っていますか？	知っている	54	69
	なんとなくわかる	35	26
	知らない	10	5
	計	100	100

② 児童の変容アンケート（担任用）

担任から見た客観的な児童の変容度を数値化するために、児童用の食育アンケートと同じ項目でロイロノートで12月末に実施した。担任が食育推進における重点項目を明確に把握して児童に指導ができるように、児童と同じ項目を使用した。

担任から見た評価では、概ね改善が見られた。食育アンケート（児童用）の結果と比較すると、児童の自己評価よりも担任の客観的な評価の方が「改善」している結果となり、指導効果が見られる。

表2 令和4年度児童の変容アンケート（担任用） (人)

設問	増えた	どちらでもない	減った	わからない
1 体に良い「食べ物」や「食べ方」について、もっと知りたいと思いませんか？	11	2	0	2
2 食事をする時「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をしていますか？	9	6	0	0
3 食器を正しく置いていますか？	11	2	0	2
4 箸を正しく持ち、正しく動かすことができますか？	3	9	0	3
5 よくかんで食べていますか？	7	6	0	2
6 朝ごはんは食べたほうが良いと思いませんか？	11	1	0	3
7 自分が決めた量の給食を残さず食べていますか？	11	4	0	0
8 食べ物にはおいしい季節（旬）があることを知っていますか？	12	1	0	2
9 八尾市でとれる野菜（地場野菜）を知っていますか？	12	1	0	2
10 行事食（「正月」などの決まった日に食べる料理）を知っていますか？	10	4	0	1

③ 学校アンケート（食育の項目）

毎年1月に保護者と児童を対象にした学校アンケートを実施しており、今回新たに「食育」に関する項目を追加して実施した。

児童用…給食の時間を楽しみにしていますか。

保護者用…子どもは、家庭で給食など「食」に関する話をしますか。

今回初めて行ったが、8割近い児童が給食を楽しみにしており、保護者と「食」に関する話をすることがわかった。このアンケートも次回以降は年次推移をみることを考えている。

表3 令和4年度 学校アンケート集計結果

児童用アンケート項目	はい	いいえ	どちらともいえない	無回答
給食の時間を楽しみにしていますか	79%	6%	14%	1%
保護者用アンケート項目	はい	いいえ	どちらともいえない	無回答
子どもは、家庭で給食など「食」に関する話をしますか。	77%	11%	11%	1%

④ 元気アップ週間

「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣と運動習慣を身につけて健康を保持増進するために、学期初めに「元気アップ週間」を設定している。この期間は朝の時間に、朝食や睡眠等生活習慣に関連する7項目について「生活カード」を使って各自チェックをしている。元気アップ週間の5日間、各項目で実行できたものに○をつける。今回の取組みでは、「今日朝ご飯を食べた」という項目の集計を使用した。

「朝からモリモリ 元気に八咫っ子！」		生活カード				年 組
<1学期>						
	6/19 (月)	6/20 (火)	6/21 (水)	6/22 (木)	6/23 (金)	
きのう10時までにねた						
きょう7時までにおきた						
きょう朝ごはんをたべた						
きのう運動をした						
きのう2回歯みがきをした						
きのううんこをした						
元気に朝のあいさつができた						

定期的に生活習慣を見直す取組みをすることで、自分の生活を見直すきっかけになっている。保護者の感想欄には、「家族で規則正しい生活に気をつけようと思う」など前向きな感想が見られ、学校と家庭との連携した取組みとなっている。

朝食の喫食率の年次推移をみると、1年生の欠食率が増加している。児童に欠食の理由を聞くと「時間がなかった」という答えが多いが、「お腹がすいていない」「朝ごはんがなかった」と答える児童もいた。自分で朝食の準備ができない低学年では家庭の状況によって欠食になっていることが考えられる。

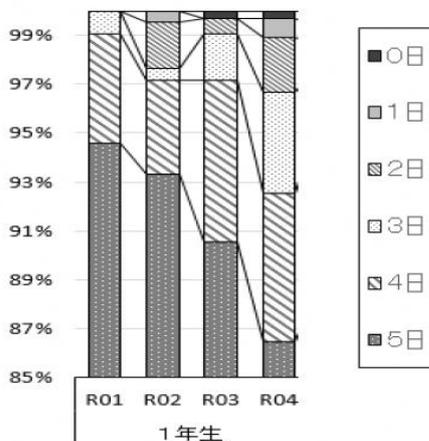


図 令和元年度から4年度までの1年生の朝食喫食率 (%)
5日間のうち朝食を喫食した日数をカウントした。
(元気アップ週間の生活カードより集計)

(2) 活動指標

活動指標に対しての取組みの達成度を数値化するために、「食育推進アンケート (教員用)」を12月末に実施し、食に関する指導の実施率を算出した。(資料2・3参照)

「できた」「おおむねできた」の合計は、給食時間の指導94%、教科等における食に関する指導88%、個別相談指導は100%だった。給食時間の資料の使用状況は50%のものも複数あった。

9. 成果と課題

『児童がより良い食習慣を実践できるようになる』という目標を達成できたのかということ、児童用のアンケート結果は想定していたほど良い結果は出なかった。しかし、担任から見たアンケートでは、全ての項目で児童の食文化への関心や食習慣の改善がなされたという結果だった。

児童と担任との結果の差異は、児童用アンケートの取り方に原因があると考えられる。設問1や6のような自分の考えを問う場合は今回のアンケートで良いと思うが、食事の挨拶やよく噛むことなど自分が実行できているかどうかを問う場合は「1回目と比較して」とアンケート実施時に明確にしたり、設問内容に関する授業の直後でアンケートをとるなどしたりの工夫が必要だと考える。

また、食育推進アンケート (教員用) では、教科等における食育の指導の推進について「あまりできなかった」という回答が20%前後あった。給食時間のミニ指導の実施率は平均実施率が69%、郷土料理の紹介動画の視聴は平均実施率が52%だった。学級によって取組みに差が出たため、全校での実施率をいかに向上させるかは課題である。

10. おわりに

今回の食育推進の取組みでは、「食文化」という1つの視点に重点を置き、食文化に関連する成果指標を掲げることで食に関する指導を学校全体に意識づけることができた。また、成果指標をアンケート項目にすることで、担任がどこに力を入れて食に関する指導をすれば良いのかを明確に伝えることができた。同じアンケート項目で児童と担任に回答してもらうことで、児童の意識と担任から見た客観的な評価を比較することができた。

また、「食文化」に重点をおくことで、どの授業に食育の視点を絡ませるのかを考えやすかった。また、「食文化」の資料を作成したり栄養教諭が授業に入ったりすることで、担任だけ、または栄養教諭とチームティーチングで食に関する指導を行いやすい環境を整えることができた。

また、食育を推進するための取組みを行うには、校内に食育を推進する組織や体制を整え、活動を継続していくことが大切である。本校でも栄養教諭が軸となり食育推進の組織づくりや組織の運営に関わり、学校全体に食育の推進を働きかけている。児童が生涯にわたって健全な食生活を送ることができるように、食育の推進を職務とする栄養教諭としてこれからもよりよい取組みを行っていききたい。

資料1 令和4年度食育アンケート（児童用）全校集計

設問	回答	1回目	2回目
		平均 (%)	平均 (%)
1.体に良い「食べ物」や「食べ方」について、もっと知りたいと思いますか？	思う	50	57
	どちらかといえば思う	41	32
	どちらかといえば思わない	4	6
	思わない	5	5
	計	100	100
2.食事をする時「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をしていますか？	している	84	84
	たまにしている	13	13
	あまりしていない	2	2
	ほとんどしていない	1	1
	計	100	100
3.食器を正しく置いていますか？	正しく置いている	77	72
	正しい置き方は知っているが、正しく置いていない	15	20
	正しい置き方を知らない	8	8
	計	100	100
4.箸を正しく持ち、正しく動かすことができますか？	箸を正しく持ち、正しく動かすことができる	73	80
	正しく持てるが、正しく動かせない	19	12
	正しく持てない	8	7
	計	100	100
5.よくかんで食べていますか？	よくかんで食べるようにしている	49	48
	きにせず食べているのでわからない	47	47
	よくかまず、すぐに飲み込んでいる	3	6
	計	100	100
6.朝ごはんは食べたほうが良いと思いますか？	思う	65	87
	どちらかといえば思う	33	10
	どちらかといえば思わない	1	1
	思わない	1	1
	計	100	100
7.自分が決めた量の給食を残さず食べていますか？	残さず食べるようにしている	70	64
	時々残している	19	29
	よく残す	11	7
	計	100	100
8.食べ物にはおいしい季節（旬）があることを知っていますか？	知っている	54	63
	なんとなく知っている	32	27
	知らない	14	10
	計	100	100
9.八尾市でとれる野菜（地場野菜）を知っていますか？	1つも知らない	12	21
	1つ知っている	16	17
	2つ知っている	23	22
	3つ以上知っている	48	40
	計	100	100
10.行事食（「正月」などの決まった日に食べる料理）を知っていますか？	知っている	54	69
	なんとなくわかる	35	26
	知らない	10	5
	計	100	100

資料2 令和4年度食育推進アンケート（教員用）

【評価】 1：できた 2：おおむねできた 3：あまりできなかった 4：できなかった																		
区分	評価指標	担任合計（人）				担任外合計（人）				担任（％）				担任外（％）				
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
食に関する指導	給食の時間における指導	学校全体で、給食の時間を活用した食に関する指導が推進され、機能しているか。	6	9	1	0	5	5	1	0	38	56	6	0	45	45	9	0
		□学級担任による給食の時間における食に関する指導を計画的に実施できたか。	7	8	1	0	2	1	0	0	44	50	6	0	67	33	0	0
		□手洗い、配膳、食事マナーなど日常的な給食指導を継続的に実施できたか。	11	5	0	0	7	2	0	0	69	31	0	0	78	22	0	0
		□教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認できたか。	4	9	3	0	2	3	0	0	25	56	19	0	40	60	0	0
		□献立を通して、伝統的な食文化や、行事食、食品の産地や栄養的特徴等を指導できたか。	8	7	1	0	4	1	0	0	50	44	6	0	80	20	0	0
	食に科等に関する指導	学校全体で、教科・特別活動等における食に関する指導が推進され、機能しているか。	7	7	2	0	4	3	2	0	44	44	13	0	44	33	22	0
		□栄養教諭が授業参画できたか。	11	4	1	0	5	3	0	0	69	25	6	0	63	38	0	0
		□教科等の学習内容に「食育の視点」を位置づけることができたか。	6	6	4	0	3	1	1	0	38	38	25	0	60	20	20	0
	個別的な相談指導	学校全体で、偏食、食物アレルギー等に関する個別的な相談指導が行われ、機能しているか。	11	5	0	0	7	4	0	1	69	31	0	0	58	33	0	8
		□偏食傾向の児童に適切な指導ができたか。	2	11	3	0	3	5	1	1	13	69	19	0	30	50	10	10
		□食物アレルギーを有する児童に適切な指導ができたか。	10	6	0	0	6	3	0	1	63	38	0	0	60	30	0	10
		□栄養教諭、学級担任、養護教諭、学校医などが連携をはかり、指導ができたか。	11	5	0	0	5	2	1	0	69	31	0	0	63	25	13	0

資料3 令和4年度食育推進アンケート2（教員用）

給食時間のミニ指導		実施率(%)
4月	牛乳パックの畳み方	81
5月	アスパラガス	69
6月	食器の並べ方	75
7月	箸を使って正しく食べよう	63
9月	正しいマナーで食べよう	63
10月	米に関心を持ち大切に食べよう	69
11月	地場野菜の小松菜に関心をもとう	75
12月	年中行事の冬至に関心をもとう	56

郷土料理の紹介動画の視聴		実施率(%)
9月	岐阜県	56
10月	鹿児島県	50
11月	千葉県	50
12月	奈良県	50